

PHD LETTER

113

2010.3

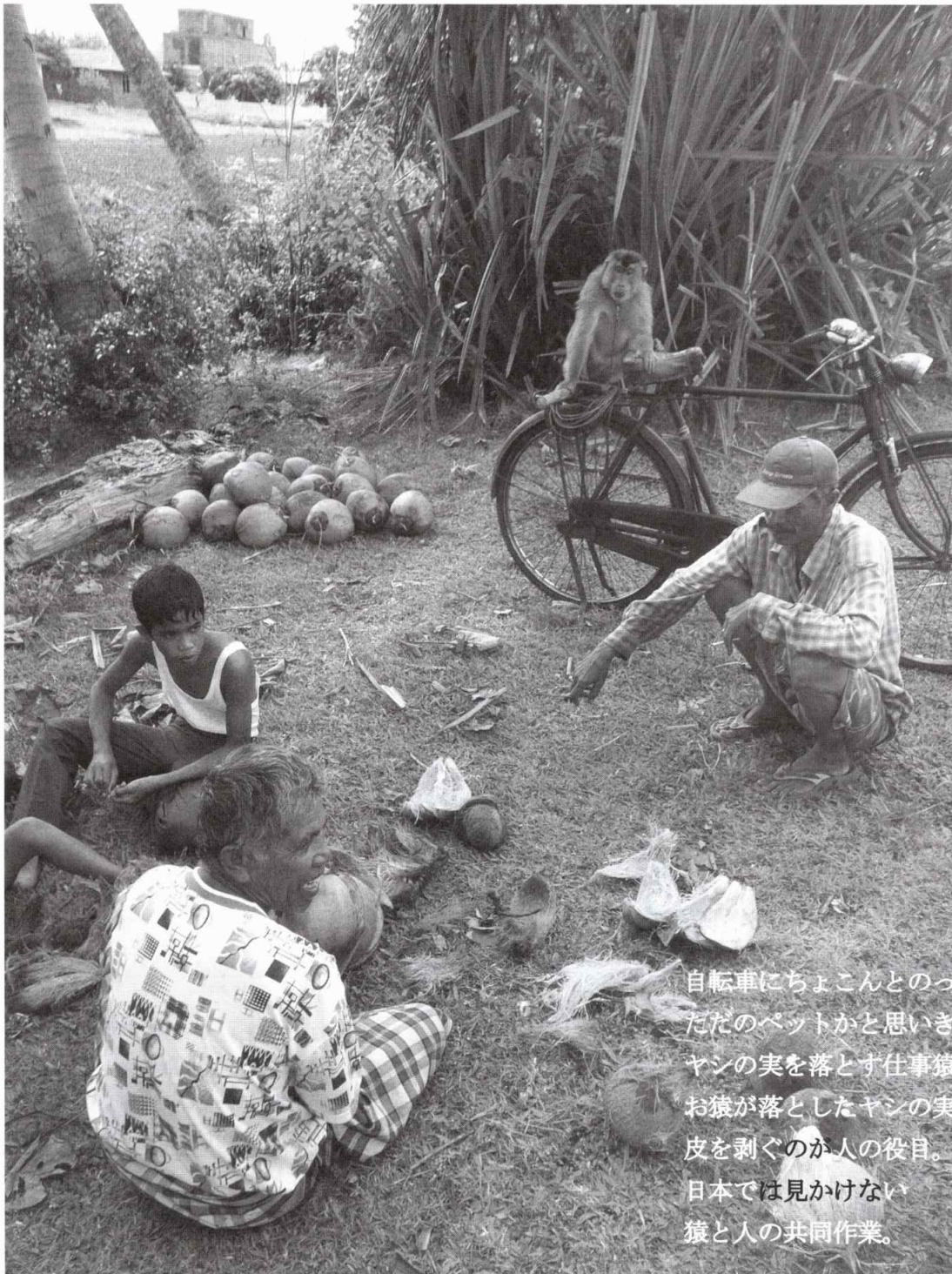
PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

- タイ・スタディツアー参加者報告
- 研修生レポート
- 同じ買うなら使うなら「手作りの布ナプキン」

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人：藤野 達也
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E mail：phd@mb1.kisweb.ne.jp
U R L：http://www.kisweb.ne.jp/phd
定 価：100円
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会
01110-6-29688

PHD協会は特定公益増進法人の認定を受けています。



自転車にちょこんとのお猿さん。
だだのペットかと思いきや、
ヤシの実を落とす仕事猿。
お猿が落としたヤシの実の
皮を剥ぐのが人の役目。
日本では見かけない
猿と人の共同作業。

東西南北
問題解決
取組日記

壁にぶつかったイチゴ栽培

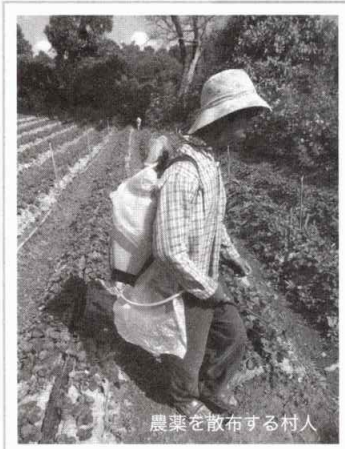
年末年始は恒例の北タイへのスタディツアー。ビルマ国境に接するメーホンソン県とその東隣のチェンマイ県に戻ったカレン人の研修生の村を訪ねた。

ふたつ目に訪ねた村はこれまでも何度か本欄でもとりあげたイチゴの村、ポックケオ。今回もコマさん（87年度）の案内で村の畑をまわった。これまでとは少し景色が違って見える。稲刈り後の田んぼがめだつ。去年にもイチゴの病気が多く



イチゴからお米に戻った

なっていることを聞いていたが、さらにその傾向が強くなっているようだ。冬場の作物として栽培してきたニンニクなどに比べて数倍の値がつくイチゴ。多くの村人が切り替え、たくさん穫れていた数年前の栽培面積のなんと2割ほどに減ったという。もともと連作障害のでるイチゴだが、それ以前はあまり使っていなかった化学肥料の連続投入が土を弱らせ、それによって病気が増え、そこで農薬をまく循環になってしまったようだ。もう薬でも、おいつかなく、十分な収穫が得られなくなり、イチゴ畑が減っている。

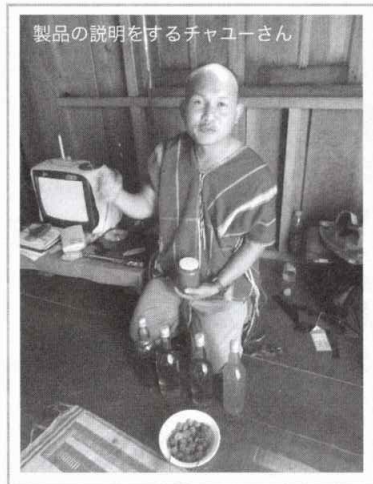


農薬を散布する村人

コマさんが日本で学んだ化学肥料や農薬に頼らない方法をコツコツ続けているが、一気に拡大したイチゴ栽培に応用してもらおうところまでには至らなかった。今後、村人がもっと堆肥や有機物の投入を増やしていけばいいのだが。

梅の加工に期待が

2年前に研修を終え、村に戻ったチャユーさん。帰国まもない昨年の暮には、まだ具体的な成果は見ることができなかったが、今年は新しい試みを見せてもらった。彼らの村ムシキー周辺は王立の農業センターの指導で梅が栽培され、実も穫れるのだが、それをうまく売ることができないままだった。日本の滞在先で梅の加工を学んだチャユーさんは、これに目をつけた。彼の家を訪ねると、今季作った、梅酒、砂糖漬、ジャム、ジュースが並んでいた。今はまだ本格的な生産までいっていないが、それぞれを瓶に詰め、ロコミで売っている。私たちも味見させてもらったが、なかなかいける。今はまだ裸の瓶のままなので「チャユー印」のシールでも考えて、貼ったらどうかとか、将来、日本にも売ったらどうかとか、ツアー参加者から意見がでた。ひょっとしてムシキーの特産品になる可能性もある。梅に関する情報を届けていこうと思う。



製品の説明をするチャユーさん

新しい事業の展開にご協力を

PHD協会の収支状況がとても厳しくなっている。財団法人として収入のひとつの柱である基本財産運用収入は、円高、アメリカの金利変動の影響による低金利で予測を下まわり、その上に寄附は伸び

悩み、会費は減少を続けている。一方の支出は一定の事業を行えば相応にでていく。節約できるところはし、減らせるところはそうしてきたが、'07、'08に続き'09も単年度の収支は赤字の見込みである。これまでの蓄えで、やりくりしているが、それも限界がある。

この状況を打開するために新年度からは、これまでの実績を土台にした新しい展開を考えている。まずひとつは「地域展開の充実」。これまでも各地で研修、啓発活動を実施してきたが点としてのものであり、それを面として広げていきたい。そのためには、「研修と啓発を組み合わせ」て、各地域の会員、ボランティアの皆さんのより積極的、主体的なかかわりの中で事業をすすめたいと思う。兵庫県内の地域に加え、北九州・下関、島根、岡山、名古屋、高山などで展開できたらと準備をしている。

PHDの目的は「平和と健康を担うづくり」である。それは海外からやってくる研修生だけが対象ではなく、日本の人たちにも、同じように平和と健康を担うお一人になってもらいたいと願っての活動である。共に生きる社会の実現をより一層はかるために、「研修生と日本の人々がいっしょに学ぶ場」をこれまで以上に作っていききたいと思う。

PHDの活動の独自性をより強く打ち出すことで、いっそうの支援、参画をいただき、会員、ご寄附の増につないでいきたいと思う。数ある国際協力の中で、モノを通じてではなく、人材育成を。日本の人が海外へでかけて行う直接の活動ではなく、地域の人々が主役になった村づくりへの支援を。一方的な海外支援ではなく、研修生を日本に迎え、各地で研修を行うことから、日本の人々も学び、足元の問題にも気づき、日々の行動につながる、といったPHDの特徴をあらためて知っていただく事業展開をしていきたい。

6月にはいよいよ30年目に入る。今一度、原点を見直し、新たな歩みをはじめていきたいと思う。皆さまのより一層のご理解とご参加をお願いします。

総主事代行 藤野達也

カレンの手織布
グループを応援する



伝統を引き継いでいくことの難しさ

毎年訪れるたびに、布グループに加わるお母さんたちから活動や現状を聞き取ります。今回話に出てきたのが、若い人たちの織り手が少なくなっているということ。子どもたちが興味を持たず、「お金にならない織りなんかしないで、他のことをした方がいい。」という意見もあるようです。お母さん世代でも基本的なものなら7割くらいの人ができます

が、売り物になるくらいの技術を持った人は少なくなっているそうです。このままでは織りの伝統が衰退してしまいます。PHDと布の女性グループとの交流がはじまって丸20年。布グループが活動することで、少しでもこの状況を食い止め、伝統を守ろうとしています。そして、お金が入ることだけでなく、「布を織る楽しさ」を大切に活動していきたいと話してくれました。

また、外にむけては、売場の開拓のことも聞きました。ムシキー村の布グループ「チョディ」では、キリスト教会を通じて3、4カ所で委

託販売を行い、販路の拡大に努めています。

かたちは変わってもカレン伝統の織りがどこかに施された商品がいろいろなところに広がればと思います。その織りが映える商品作りを今後も布グループのお母さんたちと一緒に考えていきたいです。 川原桂



草木染め布の検品作業をする参加者の皆さん。ほつれがないかチェックします。

タイ・スタディツアー参加者報告

12月23日から新年1月3日まで実施のタイツアー。今回は11人が参加。報告書の一部をご紹介します。

◆今回、最年少の15歳で参加させられました。このツアーに参加して、まずタイのカレンの人たちの生活を実際にできたことがとてもよかったです。ホームステイをしたことで、カレンの人々の食べ物や習慣、水浴びの仕方、ごはんなど、様々なことが学べました。また、農業についても勉強になりました。日本は自給率が低いから、タイのカレンの人たちのように自分たちでつくって食べるということはとても大切なことだと思います。日本もタイのことを見習わなければならない部分もあるんじゃないかなと思いました。

(藪田絢さん・中学生)

◆村を訪れ、家族や親戚、隣近所のありがたみを感じ、自分はどうだろうと考えた。自分を最優先にし、一番身近な存在をぞんざいにはしていないだろうか。甘えるばかりで何も返せていないように思う。「支え合い」の大切さをスタディツアーを通して学んでいるはずなのに、甘えてばかりの自分。返さないといけない人はたくさんいる。毎年ほぼ同じ行程なのになぜか参加したくなるこのツアー。理由は1つ。そ

こに会いたい人がいる。私を覚えてくれている人がいる。その人たちに会いたい。それだけだ。こんな遠くの国にも私とつながっている人がいることが嬉しい。私を支えてくれる人がいることが嬉しい。その人たちとの再会を通してすぐそばのつながりを再確認することができた。

(日野ひとみさん・教員)

◆有機農業については、メーサリアンでは、農場内に菌の培養場、養魚池などを持ち、新たに有機農業を共に勉強する人々を受け入れる建物を建設中など、非常に前向きな姿勢に接することができました。



ブリチャーさんの農業大学時代の友人、パットさんの有機農場を見学しました。

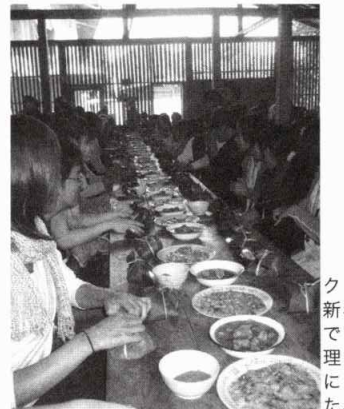
ムシキーでは、研修生チャユーさん（07年度）が日本語で多く語ってくれました。土を強くする菌、殺虫剤に代わる害虫の取り方、堆肥の作り方など、普段我々があまり気にしていないこと（農業）が非常に大事であることを知ることができました。彼は帰国後も年に一回チェンマイの農業研修に参加したり、

時間のあるときは地域の人々の病気に関することを近くの病院へ出向き相談に乗ったりもしています。このように日本で研修を終え、国に帰って人々に伝え・広める活動をし、日本に対してよい感じを持っているのに接し、非常にうれしく思いました。

(岡田猛さん・会社員)

◆スタディツアーに参加して、人の温かさやがんばる姿勢、そして気持ちを伝えることを感じた気がします。日本で生活は毎日忙しくて、時計とスケジュール帳との格闘の日々になってしまっています。タイの人々のゆったりした行動や程よい距離感のものはものすごく落ち着くものでした。タイでの日々は「そんなにがんばらなくていいんだよ」と教えてくれた気がして、参加してすごくよかったと思っています。『マイペンライ（大丈夫、平気）』私の心の合言葉にします。

(西村友貴さん・大学生)



クリスマスと新年のお祝いでカレンの料理をこちそうになりました。

27期生研修生レポート

10月～3月までの研修

ビショさん
(22歳・ネパール)

12/15～22
伊藤博文(蜜柑/和歌山県広川町)
2010/2/1～8
丹南健康福祉センター
(保健衛生/篠山市)
滞在: 小嶋英毅(篠山ナマステ)

ロザさん
(21歳・インドネシア)

10/21～27
PHDひだ友の会(洋裁/岐阜県高山市)
滞在: 石原辰雄
12/15、16、18
トルハースト直子(洋裁/神戸市)
2010/2/1～6
はらっぱ保育所(保育/西宮市)
滞在: 前田公美

ザーナウンさん
(22歳・ビルマ)

12/14～22
渋谷富喜男(野菜/神戸市)
2010/2/1～5
三木市総合保健福祉センター
(保健衛生/三木市)
滞在: 光田弘

共通研修

10/28 コープこうべ(協同組合研修/神戸市)
11/5 なでしこ歯科(口腔衛生研修/神戸市)
12/5～6 旅路の里
(釜ヶ崎歴史や現状/大阪市西成区)

12/8 コープこうべ
(協同組合研修/神戸市)

2010/1/9
兵庫県有機農業研究会「はたんぼ」
(有機農産物販売店舗見学/西宮市)

1/12
食品公害を追放し安全な食べ物を求める会
(住民組織化研修/神戸市)

2/9 コープこうべ(協同組合研修/神戸市)
2/11～13 研修報告
(リーダーシップ研修
/篠山市、朝来市、三木市)

2/18 なでしこ歯科(口腔衛生研修/神戸市)
2/22 淡路島モンキーセンター
(残留農薬の弊害について/洲本市)

山口勝弘(果樹/南あわじ市)
3/6 帰国報告会

【敬称略】



塩尻めぐみ幼稚園での交流会

ネットワーク～恵泉女学園大学～<山梨県>
牧丘第二小学校～山梨英和中学校・高等学校
～山梨YMCA～<長野県>塩尻めぐみ幼稚園
～日本キリスト教団松本教会～<岐阜県>日
本キリスト教団中濃教会

西日本研修旅行 2010/1/14～26
<鹿児島県>かごしま有機生産組合～だるま
保育園～<熊本県>水俣病センター相思社～
<鹿児島県>出水市交流会～<熊本県>湧心
館高校～東アジア共生文化センター～熊本
YMCA～<大分県>竹田市交流会～<福岡県>
>祝町小学校～旭ヶ丘会館交流会～<山口県>
>梅光学院大学～梅光女学院高等学校～<広
島県>平和学習～<島根県>瑞穂交流会～<
広島県>灰塚コミュニティセンター交流会～
共生庵～<岡山県>岡山YMCA～産廃処理場
見学(福谷エコクラブ)



福谷エコクラブの皆さんから
産廃の説明を聞きました



水俣病センター相思社にて

東日本研修旅行 11/11～21
<愛知県>南山短期大学～アークス東海宝樹
院～トヨタ自動車労働組合～アークス東海宝
泉寺～小牧幼稚園～<静岡県>東海大学海洋
学部～<神奈川県>もみの木クラブ～山崎・谷
戸の会～<東京都>全日本自動車産業労働組
合総連合会～日本労働組合総連合会～ロータ
リー米山記念奨学会～アークス仏教国際協力

ごみ問題、これらは決して研修生の
村とも無縁ではない問題です。

研修旅行も無事に終え、気が付け
ばもう帰国の時期。若さに溢れ、こ
れまでの研修生に比べてもまだまだ
判断の及ばないところの多い今期の3
人でしたが、いつかきっとこの1年間
の経験が自分を成長させたと思付く
日が来ることだろうと思います。牛
歩のように遅くとも、しっかりと自
分たちの村の将来を考えていても
らいたいと願います。 高垣隆博

27期生研修を振り返って

研修も後半に入った10月以降、研
修生は協同組合などの研修に加え、2
度の研修旅行を行ってきました。

11月の東日本研修旅行では横浜で
青空保育を運営するNPO「こどもの広
場もみの木」の活動や鎌倉で里山活
動に取り組む「山崎・谷戸の会」に
活動のお話を聞かせてもらい、研修
生の出身地域での保育のあり方を考
えたり、住民参加の街づくりを参考
としたりしました。

1月の西日本研修旅行では大雪の後
で鹿児島でも雪を見ることができ、
研修生は早速雪遊び。一方、やはり
暖冬の影響か、広島・島根の山間部
でも今年はほとんど雪がなく、研修
生は少々残念に感じていました。

その西日本研修旅行の大きな目的
の一つでもある水俣と岡山での環境
学習。物に溢れ、不便さを感じさせ
ない日本の生活に慣れてきた今こそ、
研修生たちには改めて豊かさについ
て考えてもらいました。水質汚染や

ビショさん 収穫期のみかん栽培の研修
(和歌山県広川町)



ボカシ肥料について復習中
(大分県備後大野市)

私は日本で農業とくまあいと日本のいろいろ
もんだいについて、べんきょうしました。あたしの村で
野菜のしめがきが好きです。かかきりょうたくさん
つかいます。野菜とくまあいとでできて、たくさんのがやく
つかいます。これは人間のからだや自然によくない
です。だから日本でもうき農業のべんきょうしました。たい
りょうのつくりかた、野菜のつくりかた、みかんのつくりかた
べんきょうよかったです。

私は村にかえってお父さんやビヌタさんと
いっしょにきょうしてグループをつくって日本で
ならったことを村のみんなにおしえたいです。のうかの
せんせりやボランティアのみなさんのおかげでよく
べんきょうできました。いっしょありがとうございました。
विश्वजित लामा नेपाल ビショ ジットラマ、ネパール、カハラ村



堆肥センターの見学
(コープこうべ)
ザーナウンさん



有機野菜の
共同購入
(求める会)



ロザさん

妊産婦の健康について勉強中
(島根県東出雲町)
保育園で栄養について勉強中(養父市)

わたしは日本で1年間の
きょうのびをべんきょうしました。のうぎょう
はやさいのさいばいやしせんのがやくに
ついてまなびました。さいきんはわたしの
くにではかかきりょうやのうがた
さんにつかわれていてとてもきけんた
のでしせんのがやくがやさいによつ
ても人によつてもよいことをまら
つたえてひろくたいとかんがえます。
わたしはのうぎょうのびをわたしの
たちにしえてのうぎょうのグループを
つくりたいです。できたのうぎょうやくだものを
まちのおみせでうります。あのみせはのうぎ
のグループがつくったみせです。だから
co-op.きょうどうくまあいのびをまなび
ました。くにへかえってからわたしの
たちといっしょけんめいがんばりたいです。
わたしは1年よくべんきょうができました。
いろいろてつだいくれたみなさま、PHD
のはいんたち、ボランティアにいつも
ほんとうにありがとうございました
がんばります
ザーナウン
ビルマ

わたしは11月にまじけんえいせい
やはいくえんやようせいいろいろなべ
んきょうをしました。11月のもんだい
もべんきょうしてあります。たえいばみな
またいっしょけんめい、けんめいはいき
つくとみまじけんえいせい、いちばんよか
です。たべものえいせいのべんきょうしたのが
よかたです。たえいば、りょうじょうおら
ではあかあさんたちはこのことをあまよくし
ていん。おらのりょうじょうはとく、こおぎ
こといっしょにまじけておれをしてお
ままあかあさんにあげます。えいせいすくな
いとおもいます。11月ではあかあさんたち
はりょうじょうつくってまじけん、よく、やさい
くだものそれからとろとろしてそのままあか
あさんにあげます。えいせいバランスがとれて
いていいおもいます。あらいとくがいは
あまよくきょうするたけにたいせつなこ
をべんきょうしました。おらではあらいとくが
いはあまよくきょうするたけによくしりま
せんでした。わたしはくにへかえってから
ヘルマさんとわたしもいっしょけんめい
とていなりおらのみんちたちといっしょに
グループをつくらせてあげたいです。インドネ
シア、ロザ



No.16 手作りの布ナプキン

先日、研修生のロザさん（インドネシア）とともに、神戸市垂水にあるアジア雑貨「season」日向本店であった布ナプキン（女性用生理用品）の作り方のワークショップに行ってきました。作って使う理由はこれ！

1. ゴミを出さない
2. 家にあるもの、破れてもう着ることができない服やTシャツ、使い古したタオルで作ることができる
3. 体に直接触れるものが自然の素材でできたものなので、体に優しい
4. 手作りなので愛着がわき、大切に使うことになる

作り方はそれほど難しくなく、2時間程度で出来上がります。何よりも古

布で、手縫いのできるので、ロザさんも村に帰ってみんなに紹介できると喜んでいました。

進行役の井上佳織さんは神戸市垂水区を中心に「可愛い」「おしゃれ」「楽しい」をコンセプトに、自然素材で手作りのものを販売しています。毎週金曜日には、今回お邪魔した「season」で、作り方のワークショップを行うこともあります。また井上さん手作りのオーガニックコットンで作った布ナプキンも販売しています。

PHD協会にも、ワークショップでいただいた型紙&作り方の資料があります。ご希望の方には、FAXでお送りします。

お問い合わせ先

メールアドレス：井上佳織さん
info@slow-po-life.com
URL: <http://www.slow-po-life.com>
「season」のブログ：
<http://seasonfk.exblog.jp>



◆作り方◆

① 本1本の型をとる。→ 中身を3枚取り出す。
（タオル、Tシャツから1枚ずつ）

② 4角の生地を中身を、
タオル：Tシャツより1枚の巾に
重ねて3枚縫う。（縫いは5mm）

③ ②とTシャツの生地を
中表にして縫う。

④ 裏返す。

⑤ 縫い目にステッチする。

⑥ 中身がズレない様に
スラッチする。（2本）

⑦ ボタンをつける。

出来上がり☆☆

井上さんが作った「作り方」資料より

スマトラ島沖地震 募金のご報告

2009年9月30日、インドネシア、スマトラ島で起こった地震は、当会研修生の村にも大きな被害をもたらしました。幸い人的な被害はありませんでしたが、アリさん（87年度）、サムスアリスさん（91年度）、ヤニさん（92年度）の3人の研修生が暮らす西スマトラ州パリアマンの漁村、パシルバルーでは多くの建物が倒壊しました。特にモスク、学校といった公共的なものに被害が大きく、地震後4ヵ月たちましたが、まだ復旧の手が及んでいません。

PHD協会は緊急救援を主たる活動にしていますが、研修生の村に被害が発生し、彼らの活動に支障が発生していることから、その支

援のための募金を実施しました。2月12日現在で合計1,309,403円のご協力が寄せられました。今回は関西国際交流団体協議会を通じてパナソニックグループ労働組合連合会様及びパナソニックAVCネットワークス労働組合様、また毎日新聞大阪社会事業団様からもご支援がありました。ありがとうございます。アリさんと相談の上、パシルバルー村の幼稚園舎とモスクの補修に充てる予定となりました。

あらためまして、皆さまのご支援に感謝申し上げます。



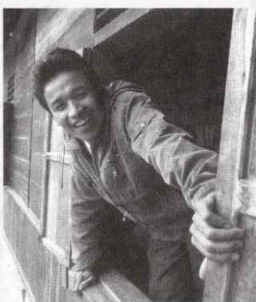
アリさんから届いたパシルバルー村の震災後の写真。

訃報

スリヤ・プットラさん (06年度インドネシア)

昨年11月26日、インドネシアのダスウィルさんよりシランジャイ村のプットラさん（24期生）から頼まれ日本から送っていた物が届いたとの知らせ。その数時間後、改めてダスウィルさんからの電話、そして突然知らされたプットラさんの訃報。いつも笑顔を決やらず日本でも思慮深く農業研修に励んだプットラさんが11月26日亡くなりました。2008年夏頃に大腸癌が見つかり、その後皆さんのカンパで手術をした後はそのハンディにもめげず頑張って魚の養殖にも取り組み始めていた彼ですが、昨年秋頃より再度体調を崩していました。病院で詳しく診てもらえなかったため、直接の原因は分かりませんが、恐らく癌に関係すると思われる。まだ26歳でした。

日本では直ぐに病院で治療を受けることができる病気でも、村では病院に行くことさえ難しい現実。村の生活の厳しさを改めて感じさせられた瞬間。プットラさんのご冥福をお祈りいたします。



毎年恒例ソディ値札付け

毎年年初の土曜日は年末年始のタイ・スタディツアーで持って帰ってきたカレンの布の値札付けに、たくさんのボランティアの方々が集まります。今年の新作をチェックしながら、昨年と比べて改善された点、今後改良していくべきところなど、次年度に向けた意見を交換しながら、値札を付けていきます。これから1年間の全国各地で行う布の販売に向け、準備万端となりました。



PHDのつどい

- 第2回「私の有機農業、研修生の有機農業」
- 第3回「PHD to 水俣〜つながる国際協力と地域活動」

PHDの活動をされている方々をお招きして、発題者と参加者として語ろうということで始まった「PHDのつどい」。第2回は、約20年前から多くの研修生を受け入れて頂いている農家の渋谷富喜男さんを迎え、ザーナウンさんも交え、参加者の皆さんと有機農業やビルマの生活について語り合いました。

タイ帰国研修生短信

スラデさん（08年度）



村での幼稚園の運営、子どもたちの寮の運営に加え、チェンマイ郊外の施設「セルフサポートセンター」で農業やリーダーシップトレーニング、そしてキリスト教の理解を深める活動など、4つのプロジェクトを担当しています。山岳民族のひとたち、特に子どもや若い人たちのために精力的に活動しています。

ポーディーヤさん（06年度）



今期は米、落花生、赤豆を栽培し、収穫は良好。布グループの活動では、ミシンの使い方を1ヶ月1回教えています。また、隣村で行われる裁縫の講習会に布グループのお母さんたちと参加をしています。新しいデザインをとり入れた手織り布の商品開発に取り組んでいます。



また、第3回は国内研修生を経て、水俣病センター相思社職員をされていた坂

西卓郎さんを迎え、水俣でのPHDとの関わりをお話いただきました。水俣のみかんを食べながら、国際協力と地域活動のつながりを考えました。

トークイベント&オーガニックディナー 「有機野菜を作る人」 in中崎町

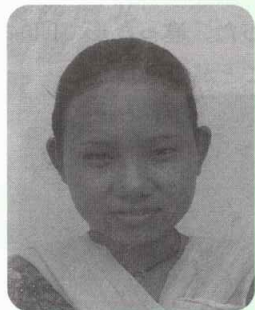
関西NGO協議会の呼びかけのもと、国際協力をもっと身近に感じてもらおうと、12月から2月にかけて関西のNGOが合同で「いっちょカマーキャンペーン」を実施しました。その一環として、大阪市中崎町のコモンカフェをお借りし、有機野菜の料理を食べながら、ビルマの研修生ザーナウンさんと、自然農法で野菜を作っている隅岡

敦史さんとの対談を行いました。27名の方が参加しました。違った形でPHDの活動を紹介することができました。



- 11月1日 兵庫県第24団加古川ガールスカウト交流会
- 11月2日 のぞみ保育園交流会
- 11月3日 明石環境フェアバザー
- 11月6日 兵庫県立国際高校
- 11月7日 コープボランティア報告会バザー
- 11月8日 三木かなもの祭りバザー
- 11月27日、30日、12月3日 明石城西高等学校
- 11月28日 PHDのつどい 第2回「私の有機農業、研修生の有機農業」
- 12月2日 いっちょカマーキャンペーン トークイベント&オーガニックディナー「有機野菜を作る人」
- 12月3日 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター
- 12月14日 阿弥陀小学校交流会
- 12月16日 芦屋大学講義「現代職業事情」
- 12月17日 国際ソロプチミスト姫路西
- 12月17日 朝日新聞大阪本社 NGO/NPO勉強会
- 12月23日~1月3日 タイ・スタディツアー
- 12月24日 東舞子小学校交流会
- 1月7日 神戸市シルバーカレッジ国際友の会新年会
- 1月30日 PHDのつどい 第3回「PHD to 水俣〜つながる国際協力と地域活動」
- 2月2日 姫路ロータリークラブ卓話
- 2月4日 姫路市立網干西公民館講演「タイ・カレンの生活と布文化」
- 2月6日 岡山県国際交流協会「国際貢献・協力セミナー」
- 2月6日、7日 ワンワールドフェスティバル
- 2月9日 明石西高校「地球市民」
- 2月12日 但馬農業高校交流会
- 2月13日 加東市連合婦人会研修報告会
- 2月15日 コープこうべ平和企画の会
- 2月16日~2月28日 南山短期大学インターン受け入れ
- 2月20日 国内問題を考える勉強会in釜ヶ崎事前説明会
- 2月20日 兵庫県連合婦人会研修報告会
- 2月25日 国際ソロプチミスト姫路西バザー
- 2月26日~28日 国内問題を考える勉強会in釜ヶ崎
- 2月27日 ならシルクロード財団ワークショップ

第28期研修生 4月15日に来日予定です



ミンクマリ タマン
ネパール・18才・女性
保健衛生、栄養、
農業、地域組織化



ウルミラ ライ ダヌワール
ネパール・28才・女性
保健衛生、栄養、
助産、地域組織化



インドラ グスティア
インドネシア・28才・男性
農業、保健衛生、
地域組織化

ビルマからの研修生が
来日できなくなりました

新研修生のビザの手配をすすめていた2月のはじめ、ビルマから予定していたエーサンダーミンさんが体調を崩し、来日が難しいとの知らせが。急遽代りの調整を行い、11年に予定していたインドネシアからの候補者を繰り上げることになりました。なんとか4月中旬の来日に間に合っしてほしいです。

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

2009年	10月	116件	¥3,391,479
	11月	138件	¥1,660,716
	12月	516件	¥4,757,713
2010年	1月	154件	¥2,966,081
		924件	¥12,775,989

上記の通り、皆様より多く会費および年末募金によるご浄財を頂きました。心から感謝申し上げます。不況の中を大口のご寄附もいただき、心強く思っています。厳しい経済状況が続きますが、引き続きのご支援、お力添えをお願い申し上げます。

◆PHDのHPが新しくなります

チャニューさん(07年度)のホストファミリーだった徳永広子さんにご協力いただき、より見やすいホームページを新しく準備中です。必要な情報がどこに掲載されているか分かるようトップページを見やすく、また職員が日々どのように活動しているのかをブログでお伝えしていきます。4月に皆さんにお目見えします。お楽しみに！



最近、贅沢な悩みにさいなまれている。全国から届く使用済み切手が以前にも増して増えたのだ。狭い事務所に山積みになっている。これを見るたびに、送って下さる善意を即換金化し、有効に使っていけないもどかしさを感じるのだ。換金化するためには、ある程度の体裁を整えて業者に持っていかないと、受け付けてくれない。一言で言えば、体裁を整えるための作業が追いつかないのだ。幸いに

◆第14期国内研修生募集

国内でも平和と健康を担う人材を育成しようと95年より実施している国内研修生制度。2010年度は、4月から募集します。募集要項をお送り致しますのでお問い合わせ下さい。

内容：PHDの事業を通じた実地研修

- 1) 海外研修生の研修に同行し、学ぶ
- 2) 国際理解・開発教育等国内に向けた啓発活動
- 3) 公益法人における組織運営

対象：日本国内居住者(日本語で研修を行います)、将来、開発協力・教育・福祉等の分野で働くことを志し、当事務所に通える方。

研修期間：4月より上限1年間

(週3～5日) 応相談

時間：原則午前9時～午後6時

支給経費：交通費

選考：書類審査後、筆記・面接

◆書き損じた年賀状、ハガキをお送り
いただき、ありがとうございます

年末に皆さんに書き損じた年賀状やハガキをお送りいただくよう、ご協力

もシルバーカレッジのボランティアの皆さんが最近たくさん来て頂けるようになって、和気あいあい作業は進んでいる。でも・・・追いつかない。切手の周囲1cmから5mmに切り落としてあるのを見ると、皆眼が笑っている。はさみを使っての体裁作りは結構手間がかかる。でもそれを楽しんでいるボランティアさんもいる。いろんな楽しみ方がある。でも私は1日も早く、善意を換金化し、有効に役立てたい。3人の研修生も事務所にいる時は、不思議そうに眺め、そしてはさみを手に取る。

(ボランティアS)

をお願いしておりました。12月、1月で1271枚いただきました。新しい切手と交換し、日々の郵送料として活用させていただきます。ありがとうございます。引き続きご協力お願いいたします。

◆元職員草地さん召天10年記念会

1984年秋から当会の総主事を務め、95年からは阪神大震災地元NGO救援連絡会議の代表、そして姫路工業大学の教授だった草地賢一さんが亡くなって10年。1月11日、兵庫県民会館で、多くの関係者が集まり、草地さんをしのび、播かれた種のその後を語り合いました。

〇月×日のPHD協会

一 近ごろ納得したこと、
納得できなかったこと

職員 高垣 東京にでかけ、泊まった宿の朝食はバイキング。沢山並んで、一見豪華に見えるけど、値段に見合うかといえば、今ひとつ納得できず。

職員 佐々木 定価の数倍でとりひきされる魔王という焼酎の噂を聞き、探しまわる。ネットオークションで落札した瓶の封を切る。大いに納得の味。

職員 川原&三輪 肩こり、肌の荒れ・かさつき、お酒の抜けの悪さ等の原因を話し合う昼休み。たどりついた結論は加齢。ならばしょうがないと納得。

職員 藤野 高校でのお話。海外へでかけてする協力だけでなく、毎日の生活で何ができるかを考える。今はそのために勉強するとの答えに大いに納得。

(風邪をひきやすい順)

制作協力：菅原宗晋 増本一朗 坂井時和
-再生紙を使用しています。